

## はじめに

名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属高大接続研究センター紀要第4号をみなさまにお届けできますことを大変嬉しく思います。

第1号の巻頭言にも書かせて頂きましたが、高大接続研究センターは、本研究科が1999年に設立し運用してきた附属中等教育研究センターを、2015年5月に発展的に改組して開設したものです。

本センター開設の背景には、後期中等教育と高等教育、そして大学入学者選抜に関する大きな改革の流れがあります。2014年12月の中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」に基づき、2015年1月に文部科学省が「高大接続改革実行プラン」を、そして9月には高大接続システム改革会議が「中間まとめ」を公表し、2016年3月には、「最終報告」が公表されました。

そのプランでは、新たに高校段階での「高等学校基礎学力テスト（仮称）」と、現在のセンター試験に代わる「大学入学希望者学力テスト（仮称）」を導入するとされました。この改革により、高校教育、大学教育、大学入学者選抜が変わりはじめました。

そのような状況の中で、高大接続研究センターは、①高大接続に関する研究、②高大接続入試に関する研究、③中等教育に関する研究、④新たな大学入学者選抜の開発、⑤高大接続に関する事業の実施、以上5点について、専門的に調査研究するセンターとして設置されました。このセンターの最大の特徴は、このセンターが全国の大学にある高大接続に関するセンターとは異なり、所属大学のための入試改革・開発をミッションとするセンターではなく（その業務を本学で担当するのは「教育基盤連携本部アドミッション部門」です）、教育発達科学研究科に附属して純粋に高大接続のための研究・開発を行う機関であるということです。その設置に関して、重要な点をここに記すこととお許し頂きたいと思います。

そのひとつは、このセンターの設立には、たくさんの方々のお力があったということです。なかでも、当時の濱口道成名古屋大学総長と松田武雄教育発達科学研究科長のご尽力なしには、このセンターの設立はあり得ませんでした。ここに記し、これらの方々のご期待に添えるよう、今後も活動を進めていきたいと考えています。

そしてさらにひとつの点は、このセンターが、附属学校内に設置されているということです。それは、国立大学附属としては唯一の併設型中高一貫校であり、日本における高大連携のモデルを形成してきた本附属中・高等学校の研究と実践の蓄積、また本研究科との協同研究の蓄積を基盤として、その延長上に、今後もいっそう附属中・高等学校と協同しながら、本センターが高大接続の先進的な研究を行っていかようとしていることを意味しています。

また、前号の巻頭言にも書かせて頂きましたが、昨年度末に、本センターの基幹経費化が認められ、当初の予定を延長して予算が措置されることになりました。これも、名古屋大学執行部、植田建男本研究科研究科長と本学文系事務のみなさま、そしてセンター研究員や本研究科の先生方をはじめとした多くの方々のご指導・ご支援によるものと深く感謝しております。

ところで、センター紀要第1号の公刊以降、高大接続改革はさまざまな面で進展し、2016年8月には「高大接続改革の進捗状況について」が、2017年1月には「高大接続改革の動向について」

が、2017年5月には再び「高大接続改革の進捗状況について」が発表され、2017年7月には文部科学省から協力者会議への説明がなされています。この過程で、上記の「高等学校基礎学力テスト（仮称）」は、「高校生のための学びの基礎診断」となり、「大学入学希望者学力テスト（仮称）」は「大学入学共通テスト」となって、具体的な姿も描かれ、後者については、2回の試行調査（プレテスト）も行われました。高大接続改革に関するこのようにめまぐるしく変化する状況のなか、本センターでは、みなさまとともに新たな高大接続教育の研究と、その実践における展開を進めていきたいと考えておりますし、それを通して、戦後最大の教育改革のひとつであるとされる高大接続改革がより有意義なものとなるための事業を展開していきたいと考えております。

さて、この紀要には、本センターが2018年2月に開催して大変好評だった第2回公開講演会「高大を接続する－高校と大学の教師の役割－」の3つの講演を収録しています。この講演会の実施は昨年度末であったため、前号に収録することができなかったものです。すでに講演の映像を公開していますが、本号に講演の逐語記録とスライド資料を掲載しました。

また、米国には、高校生の大学選択や出願準備に際して独立して生徒と保護者を助ける、「独立カウンセラー」という職があります。2018年6月に、この人達の全米協会HECA: Higher Education Consultants Association」の年次大会HECA Conferenceがダラスで開催されましたので、それに出席して情報収集をしてきました。その報告も掲載しています。

さらに、本センターのレクチャーシリーズとして、高等教育研究センター招聘セミナーと協同で行われた2018年10月26日に行われた立命館大学文学部准教授の細尾萌子先生によるご講演「フランスの高大接続からのヒント－思考力・表現力と内申点の評価－」と本研究所准教授の松本麻人先生によるご講演「韓国の大学入試改革の現在－私教育抑制政策と教育機会の格差－」、そして12月7日に行われた京都工芸繊維大学アドミッションセンター准教授の山本以和子先生による「高大トランジションの達成を目指した入試・教育の設計と開発－京工織のダビンチプログラム－」を収録しています。さらに、2018年10月29日に独自に収録した追手門学院大学アサーティブ課長の志村知美氏によるご講演「答えは目の前の学生から～アサーティブプログラム・アサーティブ入試～」を収録しています。なお、こえらはすでに、センターのWEBサイトから、それぞれご講演の映像（動画）を公開済みです。

なお、前号と同様、センターの活動報告も掲載しています。

本センターでは、来年度から、機関経費化によるあらたな年度を迎えます。また、本学からは、指定国立大学法人構想と東海国立大学機構の設立による新たなマルチ・キャンパスシステムの樹立に伴い、それへの貢献も求められています。そのような背景で本センターは、今後一層、高大接続について、名古屋大学内外のさまざまな方々と一緒に検討していく所存です。本センターへのご期待、ご要望、そしてこの紀要の編集に関することなど、ぜひ奇譚の無いご意見をお伝え下さいますことを心からお願い申し上げます。

名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属高大接続研究センター  
センター長（本研究所教授） 大谷 尚